

平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立切目小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成27年4月21日(火)

(2) 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 21名

教科に関する調査 国語、算数、理科

└ 主として知識に関する問題(A)

└ 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

└ 児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

└ 学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

○漢字を正しく読んだり書いたりすることは概ね良好であるが、文中における主語と述語の関係等、文の構成について理解すること等に課題がある。
○文章の要旨を読み取ることは概ねできているが、自分の考えが伝わるよう表現することに課題がある。

(1) 国語A (知識)

- ◇漢字(友人を家に招く)を読むのは、すべての児童ができています。[A¹一(1) 100%]
- ◇漢字(鳥のすを観察する)を書くのは、すべての児童ができています。[A¹二(2) 100%]
- ◇漢字(全員がすぐに承知した)を読むのは、ほぼすべての児童ができています。[A¹一(3) 95.2%]
- ◆コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くことに課題がある。[A⁶二 14.3%]
- ◆文の主語として適切なものを選択することに課題がある。[A²一 33.3%]
- ◆聞き方の説明として適切なものを選択することに課題がある。[A 3 47.6%]

(2) 国語B (活用)

- ◇目的に応じ、中心となる語や文をとらえることは、ほぼすべての児童ができています。[B²一(ア) 90.5%] ・ [B²一(イ) 95.2%]
- ◇目的や意図に応じ、新聞の割り付けとして適切なものを選択することは多くの児童ができています。[B¹一 85.7%]
- ◆文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことに課題がある。[B²三 38.1%]
- ◆登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることにやや課題がある。[B³一 52.4%]

平均正答率(%)

学習指導要領の領域等	国語(A)	国語(B)
話すこと・聞くこと	47.6	—
書くこと	81.0	67.5
読むこと	60.7	71.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.4	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る(青字)・下回る(赤字)

算 数

- 整数や小数、分数の計算は概ね良好であるが、角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、角の大きさを測定することに課題がある。
- 基準量、比較量、割合の関係の把握と立式、図形の観察と根拠に係る説明について課題が見られる。

(1) 算数A (知識)

- ◇繰り上がりのある2位数の加法の計算($28 + 72$)は、すべての児童ができている。[A $\boxed{2}$ (1) 100%]
- ◇除数が整数である場合の分数の除法の計算($5/6 \div 7$)は、すべての児童ができている。[A $\boxed{2}$ (4) 100%]
- ◇式で表現された数量の関係を図と関連づけて理解することはすべての児童ができている。[A $\boxed{8}$ 100%]
- ◆分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求めることに課題がある。[A $\boxed{4}$ (2) 47.6%]
- ◆円の中心と円周上の2点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として最もふさわしい円の特徴を選ぶことに課題がある。[A $\boxed{5}$ (1) 47.6%]

(2) 算数B (活用)

- ◇平行四辺形を構成することができる4つの辺の組み合わせをほとんどの児童が理解している。[B $\boxed{1}$ (1) 95.2%]
- ◆20%増量した商品の内容量が480 mlである時の増量前の量を求めることの理解に課題がある。[B $\boxed{2}$ (2) 4.8%]
- ◆示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書くことに課題がある。[B $\boxed{5}$ (1) 4.8%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	81.6	40.5
量と測定	73.0	46.0
図形	70.2	46.9
数量関係	97.6	39.7

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

理 科

○ A 区分「エネルギー」と B 区分「生命」に係る内容の正答率は比較的高いが A 区分「物質」の熱膨張や水の温まり方に係る実験結果を基に考察する問題に課題が見られる。

○ 観点における「観察・実験の技能」において、顕微鏡の適切な使い方やメスシリンダーで定量をはかり取る問題など実験器具の取り扱いに関することに課題がある。

(1) 理科 A (知識)

◇ 水蒸気は水が気体になっているものであることは、ほとんどの児童が理解している。[3] (1) 90.5%]

◇ メダカの雌雄を見分ける方法は、ほとんどの児童が理解している。[2] (1) 85.7%]

◆ 顕微鏡の適切な操作方法を身に付けていることに課題がある。[2] (1) 33.3%]

◆ メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方には課題がある。[3] (5) 42.9%]

(2) 理科 B (活用)

◇ 膨張率が小さい金属についてグラフを基に考察して分析内容を記述することはほとんどの児童が理解している。[1] (3) 90.5%]

◇ 打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を考察して分析することについてはほとんどの児童が理解している。[4] (6) 90.5%]

◆ 植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光のその内容を記述することについては課題がある。[2] (5) 33.3%]

◆ 析出する砂糖の量について分析するためにグラフを基に考察し、その内容を記述することには課題がある。[3] (6) 33.3%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の区分・内容		理科
A 区分	物 質	59.9
	エネルギー	76.2
B 区分	生 命	59.5
	地 球	53.1

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県よりも大きい。

	国語	算数
学校	80.9	71.4
県	59.2	66.9
全国	63.1	66.6

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県を上回っている。

	国語	算数
学校	95.2	90.5
県	82.8	82.7
全国	82.0	81.0

(3) 授業時間以外に全く勉強しない児童の割合は、平日では全国・県より少ない。しかし、1時間以上勉強をしている割合は、学校 42.9、県 61.6、国 62.9 であることから、学習時間の短い児童が多い。また、休日に全く勉強しない児童の割合は、全国に比べて大きい県に比べて小さい。

	平日	休日
学校	0.0	14.3
県	3.6	15.0
全国	3.0	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より小さい。

学校	52.4
県	55.9
全国	61.2

(5)「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国・県を上回っている。

学校	61.9
県	54.0
全国	53.2

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を大きく上回っており、地域との連携を重視している本校の特色でもあり、児童の地域への関わっていかうとする意識が大きい。

学校	90.5
県	63.1
全国	66.9

(7) 学校のきまりを「守っている」「どちらかといえば守っている」とほとんどの児童が回答し、全国や県を上回っている。規範意識の高さがうかがわれる。

学校	95.2
県	90.4
全国	91.1

(8) 学校に行くのが「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と全部の児童が回答し、全国や県の平均を上回っている。

学校	100.0
県	89.5
全国	87.0

(9) 家で授業の復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は全国や県の平均を大きく上回っているが、予習については全国や県の平均を下回っている。

	予習	復習
学校	33.3	87.7
県	39.4	50.9
全国	43.4	54.5

(10) 自分によいところが「ある」「どちらかといえばある」と答えた児童が全国や県を大きく上回っており、お互い認め合う集団づくりを大切に取り組んだ成果が現れている。

学校	95.3
県	76.7
全国	76.4

4 調査結果を踏まえた改善方策

国語

- ・ 普段から主語と述語の照応関係を意識させ、読んだり書いたりさせる。
- ・ 必要に応じてメモをとりながら整理して聞いたり、とったメモの内容を整理して相互関係を考えさせたりすることを意図的に取り組む。
- ・ 新聞の中のコラム等を多読させ、どのような話題が取り上げられ、それに対して筆者がどのような考えを持っているのかを読む学習を取り入れる。
- ・ 読書の機会を設定したり、様子を表す文章を書かせたりして語彙力を豊かにさせる。
- ・ 字数制限やキーワードを押さえるなどにより、目的に応じて文章で書き表すためのトレーニングを日常的に導入する。

算数

- ・ 小数の加法や減法は、整数と同じように同じ位どうしを計算することを確実に理解できるように指導する。
- ・ 角の大きさの測定にあたって、直角より大きい小さいかを判断するなど、角の大きさの見当をつけさせることで角の大きさの感覚を養うことを大切にする。
- ・ 図形を構成する活動を行うときは、活動のねらいや目的を明らかにし、図形の性質を発見したり、それを確かめたりすることを丁寧に扱う。
- ・ 日常生活の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさを活用することにより、その考え方が持っているよさや働きに関心を持たせるような指導を行う。
- ・ 授業の中で分かっていることを数学的なキーワードを使うなどして相手にうまく説明する活動を意図的に数多く取り入れる。

理科

- ・ 理科で学んだ知識・技能が実際の自然の中で成り立っていることを捉えたり、日常生活に役立てられていることを確かめたりさせるために「実験・観察・ものづくり」を中心とした問題解決をより効果的に授業に取り入れるようにする。
- ・ 実験器具の取り扱いだけでなく、実験や観察データの取り方や条件制御の意味、方法等をより丁寧に扱うようにする。
- ・ 自然の事物・現象に関する情報や観察・実験の結果などについて科学的根拠を明らかにして説明する学習活動を意図的に取り入れるようにする。
- ・ 多様な観点から、自分の考えや他者の考えを見直したり振り返ったりする学習活動を意識した指導を行うようにする。